

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○代議員支部候補者の立候補について 立候補締切 4月5日	72
○2019年度農業農村工学会大会講演会のWEB投稿受けを開始しました 投稿受付締切 4月12日	73
○農業農村工学会誌(第77巻～第79巻)J-STAGE公開のお知らせ	73
○学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集について(再) 応募締切 3月31日	73
○2019年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について(再) 申請締切 4月12日	74
○今年もやります! こりゃ映像! 2019—ミニ動画コンテスト—(再) 応募締切 7月31日	74
○会費等の「振込手数料」のご送金者(会員様等)負担について 4月1日から	75
○「農業土木標準用語事典改訂5版」の会員価格に関するお知らせ(再)	75
○学生会員入会時の特典について	75
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	75
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	76
○2020年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6月30日	76
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	77
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局について	78
農業農村工学会論文集内容紹介	80
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」内容紹介	81
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可)一覧	82
受入れ図書	83
学会記事	84

## 会員のみなさまへ

- 4月には、転勤・卒業などで多くの会員の方々が異動されます。  
引き続き学会誌を正しくお届けするために、転職・転居などで個人情報に変更のあった方は、suido@jsidre.or.jpまでご連絡ください。また、学会ホームページの会員専用サイトからも会員登録情報の確認および更新手続きを行うことができます。
- 平成31年1月時点で平成30年度会費が未納の方へ、再度請求書をお送りしております。3月末日までにお納めください。

### 第87巻第4号予定

展望：塩野隆弘

小特集：農山漁村地域の再生可能エネルギーの導入における取組み事例と地域貢献

報文：北海道における再生可能エネルギー導入の取組みと地方創生：大内幸則

報文：農業水利施設を活用した小水力発電の導入効果と課題：猪谷幸司ほか

報文：寒冷地の集中型バイオガスプラントで発生する余剰熱の利用：中山博敬ほか

報文：メタン発酵によるエネルギー生産と地域への多面的な効用：山岡 賢ほか

報文：売電を目的としない小水力発電の導入事例と地域貢献：佐藤周之ほか

技術リポート

北海道支部：釧路湿原幌呂地区における外来植物抑制に向けた取組み：田崎冬記ほか

東北支部：無勾配暗渠排水の排水効果：櫻田浩二

関東支部：既設主桁を利用した橋梁の架替工事を実施した例：吉澤良幸

関東支部：見沼管理所水路運用管理システムの構築：後 雄貴ほか

京都支部：漏洩磁束法を用いたPC鋼材の破断調査とその課題：小林浩二ほか

中国四国支部：用水路の補修工事における表面被覆工法の現場を経験して：吉永大介

九州沖縄支部：水田畑地化による白ネギモデル団地の造成と今後の展開：坂本淳一

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成31年3月7日	全国農村振興技術連盟・農業農村工学会	平成30年度東京フォーラム	Ⓟ 農業農村の防災・減災と国土の強靱化～ため池などの農業水利施設の緊急対策・国土強靱化対策の動き（平成31年度農業農村整備関係予算政府案の概要）	東京都	87巻2号
平成31年3月9日	農業水利研究部会	平成30年度研究集会	Ⓟ 農業用水管理とICT（仮）	東京都	87巻1,2号
2019年8月27日	創立90周年記念式典実行委員会	創立90周年記念式典	—	東京都	—
2019年9月4～6日	大会運営委員会	2019年度（第68回）農業農村工学会大会講演会	Ⓟ —	東京都	86巻12号 87巻1号

## 代議員支部候補者の立候補について

農業農村工学会北海道支部長・東北支部長・関東支部長・京都支部長・中国四国支部長・九州沖縄支部長

農業農村工学会 正会員・名誉会員各位

今期の代議員は、2019年5月で任期満了となりますので、次期の代議員を選出することとなります。

農業農村工学会定款第12条の規定及び代議員選挙規程により、代議員の候補者を選出するため、下記のとおり立候補者の募集を行います。

## 記

- 立候補は、所属支部の複数の正会員又は名誉会員の推薦を受けた正会員及び名誉会員に限ります。
- 立候補の届出先は、所属支部の代議員選挙管理委員会です。
- 立候補の届出の締切は、2019年4月5日です。
- 各支部の代議員定数は、次のとおりです（正式には、2019年3月14日の第254回理事会で決定）。  
北海道支部10名、東北支部20名、関東支部31名  
京都支部30名、中国四国支部15名、九州沖縄支部18名
- ご不明の点は、学会本部事務局総務部長にお問い合わせ下さい。

（参考）

- 農業農村工学会定款（抜粋）  
第12条 この法人の社員は、概ね正会員及び名誉会員80人の中から1人の割合をもって選出される代議員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）第11条第1項第5号等に定める社員とする（端数の取扱いについては理事会で定める。）。
- 代議員を選出するため、正会員及び名誉会員による代議員選挙を行う。代議員選挙を行うために必要な規程は理事会において定める。
- 代議員は、正会員及び名誉会員の中から選ばれることを要する。正会員及び名誉会員は、前項の代議員選挙に立候補

することができる。

- 第2項の代議員選挙において、正会員及び名誉会員は他の正会員及び名誉会員と等しく代議員を選挙する権利を有する。理事又は理事会は、代議員を選出することはできない。
- 第2項の代議員選挙は、2年に1度、5月に実施することとし、代議員の任期は選任の2年後に実施される代議員選挙終了の時までとする。ただし、代議員が総会決議取消しの訴え、解散の訴え、責任追及の訴え及び役員解任の訴え（法人法第266条第1項、第268条、第278条、第284条）を提起している場合（法人法第278条第1項に規定する訴えの提起の請求をしている場合を含む。）には、当該訴訟が終結するまでの間、当該代議員は代議員たる地位を失わない。ただし、当該代議員は、役員選任及び解任（法人法第63条及び第70条）並びに定款変更（法人法第146条）についての議決権を有しないこととする。

## 2. 代議員選挙規程（抜粋）

（候補者の募集及び選挙の期日）

- 第4条 支部長は、代議員の任期満了の2ヶ月前までに当該支部の正会員及び名誉会員に対し、学会誌等を通じて、代議員候補者を募集する旨の広報を行うものとする。
- 支部長は、選挙の期日を代議員の任期満了の10日以前の日を指定して定め、広報するものとする。
- 前2項の広報は、支部長に代わって会長が行うことができるものとする。

（選挙執行者）

第5条 この選挙の執行者は、当該支部の選挙管理委員会とする。

（候補者の届出）

第6条 正会員及び名誉会員で代議員に立候補する者は、当該

支部の複数の正会員又は名誉会員の推薦を受け、当該支部の選挙管理委員会に、所定の日までに届け出るものとする。

(推薦する候補者の選考・届出)

第7条 支部代議員候補者選考委員会は、推薦する代議員候補者を選考し、支部長を経て選挙管理委員会委員長に届け出るものとする。

2 前項の代議員候補者には、前条の立候補者を含めること

ができるものとする。

(代議員選挙候補者の周知)

第8条 選挙管理委員会は、所属支部の正会員及び名誉会員に対し、前2条により届出のあった代議員候補者の所属・氏名を周知する。

2 前項の周知については、各支部の選挙管理委員会に代わって会長が行うことができるものとする。

## 2019年度農業農村工学会大会講演会のWEB投稿受付を開始しました

すでにお知らせしましたように、2019年度農業農村工学会大会講演会は、東京農工大学府中キャンパスにおいて2019年9月4日(水)、5日(木)、6日(金)の3日間開催します。

大会講演発表の申込み(WEB投稿)の受付を3月1日より開始しました。

詳細は学会ホームページの大会講演会

<http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/>

をご覧ください。

WEB投稿受付期間：

2019年3月1日(金)～4月12日(金)

## 農業農村工学会誌(第77巻～第79巻)J-STAGE公開のお知らせ

本学会の学会誌第1巻第1号～第76巻第12号は、すでに、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)で運用しているJ-STAGEで公開されています。新たに、2019年1月8日から、学会誌第77巻第1号～第79巻第12号が公開されましたのでお知らせいたします。有効活用いただくようお願い申し上げます。

下記、URLよりご覧ください。

・農業農村工学会誌(75巻7号～79巻12号)

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjsidre2007/-char/ja>

・農業土木学会誌(33巻1号～75巻6号)

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjsidre1965/-char/ja>

・農業土木研究(1巻1号～32巻8号)

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjsidre1929/-char/ja>

なお、学会誌第80巻以降は、前月発行分までのものが学会ホームページの会員専用サイト(<https://member.jsidre.or.jp/>)で閲覧することができます。会員専用サイトでの閲覧にはログインが必要ですので、パスワードをお持ちでない方は、会員専用サイトでWEB利用登録の申込みをしてください。

## 学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集について(再)

学会誌企画・編集委員会では、学生向けの企画などを担当していただく学生委員を募集いたします。

募集要領は次のとおりです。ふるってご応募ください。

### 1. 応募資格

- (1) 学生会員であること。(応募時に入会可)
- (2) 年4回程度開催の委員会(東京都港区新橋にて開催)に出席できること。(旅費を支給します。)
- (3) E-mail, Webが使える環境にあること。
- (4) 指導教官の承認を得ること。

2. 任期 2019年4月から最長で2年。卒業、就職等で途中退任も可。

3. 募集人数 2名。

4. 応募締切 2019年3月31日(日)

### 5. 応募方法

下記①～⑧を記入の上、[henshu@jsidre.or.jp](mailto:henshu@jsidre.or.jp)までメールでお送りください。

- ①会員番号、②氏名、③大学名、④2019年4月からの学年、⑤年齢、⑥承認を得た指導教官名、⑦連絡先メールアドレス

### 6. 問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: [henshu@jsidre.or.jp](mailto:henshu@jsidre.or.jp)

## 2019年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について（再）

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施しております。

2019年度は、規程第4条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/format/>) より申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局あてお申し込みください。

## 記

## 1. 援助の対象

農業農村工学会の会員（学生会員を含む）、または会員により構成されるグループで代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）

## 2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
- (2) 2019年度中（2019年4月から2020年3月）に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。

る。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合、援助の可否については受理を条件として決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

## 3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度とする。

## 4. 申請締切 2019年4月12日（金）

## 5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出する。その原稿は学会誌に掲載される。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

## 6. 申込み・問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階

(公社)農業農村工学会 学術基金運営委員会

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: new-suido@jsidre.or.jp

## 今年もやります！ こりゃ映像！ 2019—ミニ動画コンテスト—（再）

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2019年7月31日（水）17時
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2019年度のテーマ（未定）
4. 応募資格 なし（どなたでも応募できます）
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞（1作品）2万円  
優秀賞（2作品）各1万円
8. アップロード方法
  - ① 動画を作成する。
  - ② YouTubeにアップロードする（9. 参考資料を参照）。
  - ③ タグに3つのワード（jsidre2019, こりゃ映像, (テーマ未定)）を入れる。
  - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
  - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT（new-suido@jsidre.or.jp）宛にメールで送る。  
入賞賞金をお渡しするのに必要な情報（氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube動画のURL）

## 9. 参考資料

- ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法  
<http://douga-tec.com/?p=4974>
  - ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門  
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>
  - ・【2017年版】Youtube（ユーチューブ）に動画をアップロードする方法  
<https://www.youtube.com/watch?v=O1slFYR0KIY>
  - ・動画作成のヒント（超かんたん動画投稿法）  
<https://www.youtube.com/watch?v=eq5PUALLukk>
- <参考>こりゃ映像2018 結果（テーマ：私のかんがい施設遺産）  
最優秀賞：万葉のゆたかな水の里 下八ヶ佐加野用水  
富山県土地改良事業団体連合会 竹沢良治  
高岡市土地改良区 北川 孝  
<https://www.youtube.com/watch?v=b2NvJysXF0o>  
優秀賞：田の下の力持ち、府中用水  
東京農工大学大学院 国際環境農学専攻 岩本智寛  
[https://www.youtube.com/watch?v=fy0NadQy\\_gQ](https://www.youtube.com/watch?v=fy0NadQy_gQ)

会費等の「振込手数料」のご送金者（会員様等）負担について

ゆうちょ銀行の手数料値上げに伴い、従来学会負担としていた「振込手数料」について、2019年4月1日からすべての「振込手数料」をご送金者（会員様等）の負担とさせていただきます。皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解をお願いいた

します。

【主な対象となる振込手数料】

- ① 会費
- ② CPD 利用料

「農業土木標準用語事典 改訂5版」の会員価格に関するお知らせ（再）

2019年6月に「農業土木標準用語事典」の改訂版が出版される予定です。それに伴い、現在、発行されている「農業土木標準用語事典 改訂5版」の会員価格を割引きして特別価格で販売中です。

	会員価格	非会員価格
定 価	3,805 円	4,628 円
特別価格	一般会員 3,000 円 学生会員 2,500 円	—

なお、非会員の方はこれまでどおり、定価の販売となります。

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット（ハンドブック+用語事典+初年度会費）に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット

（ハンドブック+用語事典+初年度会費）

- 学部生 17,000 円 (15,750 円)
- 大学院生 19,500 円 (16,750 円)

②必携3点セット

（必携+用語事典+初年度会費）

- 学部生 7,000 円 (5,750 円)
- 大学院生 10,000 円 (7,250 円)

③2点セット

（用語事典+初年度会費）

- 学部生 5,000 円 (3,750 円)
- 大学院生 8,000 円 (5,250 円)

（ ）内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

- ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック
- 必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）
- 用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先 （公社）農業農村工学会 図書係

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

## 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

### 2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

### 3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 3 月号掲載の問題は 4 月末日が解答期限）

### 5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録

（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

### 6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

## 2020 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2020 年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

### 趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

### 記

#### 1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

#### 2. 対象巻号 学会誌第 88 巻（2020 年 1～12 月号）

#### 3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してくださ

い。四つ切りワイド、A4 サイズも含みます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

#### 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 5. 締切 春季 2019 年 6 月 30 日

夏季 2019 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りません。

#### 6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

#### 7. 結果発表

学会誌第 88 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は 2020 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

#### 8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文（500 字程度）をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

#### 9. 使用権・著作権

採用作品の著作権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ（http://www.jsidre.or.jp/

journal/）に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第 87 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
第 87 巻第 4 号 農山漁村地域の再生可能エネルギーの導入における取組み事例と地域貢献	公募終了
5 号 常態化する大規模災害とリスクマネジメント（仮）	公募終了
6 号 レジリエンス研究と農業農村工学（仮）	公募終了
7 号 大会特集号（関東支部）	公募なし
8 号 農村地域における生活環境整備の現状と今後の対応策（仮）	3月20日
9 号 農地集積 8 割の達成後、農村はどのように変化していくのか（仮）	4月20日
10 号 世界かんがい施設遺産や世界農業遺産による農村の活性化（仮）	5月20日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

第 87 巻第 8 号テーマ「農村地域における生活環境整備の現状と今後の対応策」（仮）

農村地域における生活環境の整備は、農業農村整備が大きく担っています。戦後まもなく取り組まれた農道整備事業を端緒に農村基盤総合整備パイロット事業、農村総合整備モデル事業から今日の農村集落基盤再編・整備事業までの環境整備により、農村地域の生活環境の整備水準は都市部地域と遜色ない、あるいはそれを凌駕するまでに至っています。

一方で、道路や水路、農業施設など整備が大きく進んだ 1970 年代から 50 年近くを経てそれら生活環境施設の老朽化は進んでいます。加えて、その間に並行してきた過疎化・高齢化などで一部の農村地域では生活空間の縮退も生じており、農村地域の生活環境の内容は大きな局面に差し掛かっています。

今後、人口減少や少子高齢化を背景にして、農村地域社会のドラスティックな構造的変化が予想される中、生活環境の整備の在り方も大きく変わってくるものと考えられます。集落の再編に伴う生活環境施設の統合、田園回帰や二地域居住など交流人口を踏まえた環境整備、上下水道と農業用水・集落排水の一体的な管理など、これまでの生活環境整備の範疇<sup>はんちゆう</sup>では収まり切れない整備課題が想定されます。

本小特集では、現代の農村地域が抱えている生活環境の実態と課題、今後の農村地域社会の変貌を想定した新たな生活環境整備や維持管理の考え方など、生活環境施設に焦点を絞った農業農村整備の展開方向につながる報文を募集します。

## 第87巻第9号テーマ「農地集積8割の達成後、農村はどのように変化していくのか」(仮)

国は新たな土地改良長期計画(平成28~32(2020)年度)に基づき、2023年までに担い手が利用する農地面積が全農地面積の8割を占める政策目標を掲げ、農地集積を推進しています。こうした中で、農地中間管理機構が創設され5年経過し、同機構を活用した集積協力金交付事業や機構関連農地整備事業等のさまざまな事業により、すでに5割以上の農地が担い手へと集積されています。

しかし、農地集積の推進とともに離農が進み、土地持ち非農家の増加と農家の高齢化により、農地や農業用水といった地域資源の維持管理作業への参加者が減少しています。このため、とりわけ水管理や畦畔の草刈りなどの作業にかかる担い手への負担が過度に集中し、労力・時間的な制約から、一定以上の農

地の集積・集約化のペースが減速しています。

他方、このような制約を経営の複合化、多角化、他業種との連携などによりブレイクスルーし、100haを超えて経営規模を拡大する農業経営体が、平地に限らず中山間においても出現しています。同時に、このような地域では水管理や生産管理のあり方が従来と異なり、農業経営体とムラ社会の関わり方についても、大きな変化が生じていると考えられます。

本小特集では、このように大きく農地集積が進んだ地域において、農業の構造的な変化に対応するための基盤整備や基盤データを活用した情報アプリなどを利用した営農の取組み、また地域社会の維持にかかる課題やその対策などについて、広く報文を募集します。

## 第87巻第10号テーマ「世界かんがい施設遺産や世界農業遺産による農村の活性化」(仮)

世界農業遺産は、世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域を国際連合食糧農業機関(FAO)が認定する制度です。また、世界かんがい施設遺産は国際かんがい排水委員会による、歴史的・技術的・社会的価値のある灌漑施設を登録・表彰するためのものです。

これらに認定・登録された施設は、新聞などのマスメディアに取り上げられることが多いため、これらの制度の存在は広く知られていると思います。一方、農林水産省のウェブサイトによると、たとえば世界かんがい施設遺産では「登録により、かんがい施設の持続的な活用・保全方法の蓄積、研究者・一般市民への教育機会の提供、かんがい施設の維持管理に関する意識向上に寄与するとともに、かんがい施設を核とした地域づくりに活用されることが期待されています」とありますが、具体的にどのような取組みが行われているのか、これらを実現する際にどのような苦労や問題点があるのか、といったことについてはあまり認知されていないように思います。

世界農業遺産については国内で11件の登録があり、わが国は中国に次いで2番目に認定地域が多い国です。世界かんがい

施設遺産に至っては全74件の登録のうち国内での登録件数は35件もあります。これは、日本が雨の多い地域で昔から水を上手に使うことで豊かな国土を維持してきた先人たちの「遺産」が豊富にあることを意味しています。これらの優れた農業システムや灌漑施設を有効に使うことで、地域の活性化や観光などの経済的側面のほか、教育や地域住民へのアピールを通して地域の中での農業の役割や地域愛を育むなど、地域おこしに役立つはずで

そこで本小特集では、世界かんがい施設遺産や世界農業遺産を活用した地域おこしの取組みやその効果の検証、実施の際の苦労などについて、現場で実際に取り組みされている実務者の方々やコーディネートされている行政の方々、あるいはそこで研究されている方々などの幅広い方々からの報文を募集します。さらに、これらの登録・認証制度を利用した地域おこしの可能性や地域のアピールの方法など、実際の取組みだけにとどまらず、世界かんがい施設遺産や世界農業遺産に関連する報文を広く募集します。

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017年のインパクトファクター(IF)は過去最高の1.379となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)
- ② 排水(排水管理、排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良、土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発、水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節、地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生、陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災(施設管理、地すべり、気候変動)



災害防止など)

- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また, 世界 14 カ国から Editor (18 名) を選出することにより, 国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし, さらに国際的な流通を考慮して, 国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は, Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

一方, 2018 年 7 月から, 新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

#### 編集体制

- ・ Editor-in-Chief : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)  
Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan
- ・ Editors 14 カ国から 19 名
- ・ Editorial Advisors 30 名
- ・ Chief Managing Editor  
Dr. Kimihito NAKAMURA  
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
- ・ Managing Editors  
Dr. Jin-Yong CHOI  
Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea
- Dr. Inhong SONG  
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea
- Dr. Chihhao FAN  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
- Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Hiroshi IKEURA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

#### 編集事務局 (2018 年 7 月から 2020 年 6 月まで)

・ Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan  
Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, JAPAN

TEL : + 81-75-753-6156

FAX : + 81-75-753-6476

E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は, まず農業農村工学会にご入会の上, お申し込みください。

なお, オンラインジャーナルへの完全移行に伴い, 2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 ([suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)) まで会員番号を明記の上, お申し込みください。

## オンラインジャーナル 農業農村工学会論文集

農業農村工学会論文集は, より投稿しやすい環境と早期公開を実現するため, 平成 27 年 4 月より J-STAGE を利用したオンラインジャーナルになりました。

J-STAGE 上に公開されることで被引用環境も整っています。

進化した農業農村工学会論文集に皆様のご投稿をお待ちしております。

→ 電子投稿・査読システムの導入により, 最短 2 カ月 で審査終了!

→ 審査終了後, 順次 J-STAGE に掲載!

→ 論文集購読者は, オンライン登載直後より閲覧可能,

冊子体も配布, 掲載料も低価格!

→ 投稿資格を緩和, 非会員も条件により投稿可能に!